

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はぐくみの家 第2ココ		
○保護者評価実施期間	R8年 9 月 1 日 ～ R8年 9 月 11 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R8年 9 月 1 日 ～ R8年 9 月 18 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 9月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども本人とともに、ご家庭の特性などに応じた対応ができるように配慮している。、	・保護者の要望、並行利用園の御都合に応じて、自宅送迎、並行利用園への送迎、朝の早期受け入れ、時間外延長預かりなどにてできるだけ対応している。 ・外国人家庭（ブラジル国籍）の子どもについても、母国語で保護者対応できる支援スタッフの配置により、日常の様子など連絡している。	・個別対応のための複雑なシフトの煩雑さ紛れて、保護者への連絡や職員同士の共有が不十分な面があるので、さらに伝達、コミュニケーションのスキルの向上に努めていきたい。 ・さまざまな国籍の児の利用があり、現在はベトナム人家庭への対応のための体制を整えたいと願っている。
2	少人数ではあるが、できるだけ一般の幼稚園等と同様の集団による保育プログラムを設定し、さまざまな体験ができるように工夫している。	保育園、幼稚園での保育経験のあるスタッフの他、元小学校教諭、元特別支援学校教諭の経験をもつ職員の配置があることにより、こどもたち一人ひとりのニーズに合わせた活動プログラムを設定するようにしている。	それぞれの経歴の違いが、療育理念・支援方針の違いにならないように、職員研修等の機会により共通認識がもてるようにコミュニケーションを取っていきたい。
3	保護者、幼稚園等の相談に対応して、並行通園の希望に対応している。	並行通園の受け入れにより、曜日によって利用児のメンバーが入れ替わるため、活動プログラムが偏らないように、できるだけ公平になるように努めている。	グループ編成、担当職員の配置などを工夫し、子どもと保護者への対応に支障がないように工夫していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開設時から中古物件を改装した建物を活用しているため、こどもたちが生活する場所としては、清潔、安全、機能性について改善すべきところが多い。	雨漏り、危険箇所など緊急性の高いところは、できるだけ速やかに修繕していきたいが、建物の構想上の変更には、経済的に対応の難しさがある。	職員・御利用者からの意見を受け止め、できるところから改善に取り組みたい。
2	幼稚園等との並行通園での利用が増えている。園によって違いがあるが、並行利用することのデメリットを補うところまでの連携・協力ができていない。	それぞれの幼稚園等によって、並行通園に対する理解・対応に差がある。定員以上の利用者数があり一人ひとりの支援会議等の調整にかなりの労力を要する。	・幼稚園等に加えて、保護者、児童発達支援事業の利用希望者なども視野に入れ、相談支援専門員からのアプローチに期待したい。 ・幼稚園等と個々に情報交換、個別支援会議等の努力を進めつつ、児童発達支援センターを含む児童発達支援共通の課題として協議できる機会をつくりたい。
3	非常時等の対応について、作成したマニュアルを職員に徹底することや、避難訓練等の具体的な取り組みについて、保護者へ十分にお伝えしきれていない。	制度上求められる課題は多く、形式のみは整えたとしても、それを実態に即して検討し、実質的なマニュアルとして運用できるようにするまでの対応にいたっていない。	研修等を通じて職員の理解を深め、日常の活動内容・支援内容の一部として、保護者にもお伝えできる方向を検討したい。